

答 辞

春の訪れを感じるこのよき日に、卒業の日を迎えることができ、第六十七期卒業生一同、大変嬉しく思っております。

私たちのために、このような素晴らしい式典を挙行していただき、心から御礼申し上げます。また皆様からの数々のお祝いや励ましのお言葉をいただき、喜びと感謝の気持ちで一杯です。

この度、卒業という良き日を迎えることができましたのは、学院長先生をはじめ、未熟な私たちを熱心にご指導してくださった先生方、いつも温かい挨拶と笑顔で様々な学院生活を支えてくださった事務局の皆様、そして共に支え合い、力をあわせて学んできた、卒業生、在校生の皆様のおかげです。

また、私たちの勉学をご理解、ご支援してくださったご家族の皆様にも心から感謝を申し上げます。

振り返りますと、私たち第六十七期卒業生、十三名は、それぞれが様々な志を持ち、夢や希望の実現に向けて入学いたしました。年齢や職業、人生経験も全く異なる私たちでしたが、療術を身につけ、人々や社

会のために役立ちたいという思いは共通でした。

私がこの東京療術学院に入学しましたきっかけは、子ども達の側湾症の発症でした。

オステオパスの知人からの影響を受け、筋肉や骨格のことなどを勉強したいと思い、オステオパシーを学べる学校をいろいろ探し、東京療術学院にたどり着きました。学院のリピート制度や見学时に丁寧な説明をしてくださる職員の方々に安心感を感じ、入学させていただきました。

入学してからはすぐにコロナ禍になり、しばらく外出自粛のため授業が受けられませんでした。

しかし、その後オンライン受講やさまざまな感染対策をとっていただいた事務局の皆様のご尽力に感謝いたします。

入学したばかりの頃は、学科の東洋医学の授業の聞き慣れない言葉についていけず困惑致しました。整体などの実技の実習では、私は人の体に触れることに慣れておらず、また人とコミュニケーションを取ることが苦手なため、大変緊張いたしました。

そして、オステオパシーの授業では、専門用語から手技の内容まで理解できないことばかりで戸惑うことも大変多かったです。

そんな中、先生方は授業を楽しく、また分かりやすくご指導くださり、そして、沢山の卒業生、在校生の皆様優しく手解きしていただいたことで緊張もほぐれて、戸惑うことも減っていきました。

また、実技の整体やリフレクソロジー、アロマセラピーなどの授業を受けることで自分の身体が良くなっていくように感じ、学院に通うことで元気をいただいているようで、通学が楽しく思えました。

そして、一度では理解できなかつたそれぞれの手技の奥深さを、徐々に体感することが出来きていき、療術の素晴らしさに感銘を受け続けます。

お陰様で、学院で学んだことを息子に施術していくと、側湾症の主治医から「通院の必要がない」と言っていただけるまで改善いたしました。まだまだ未熟ですが、今では人を療術で癒すことが、私の人生最大の喜びと感じています。

人生百年とも言われる時代に、いつまでも健康を保ち、若々しくいられるように、療術はますます人々に必要とされていくと思います。

また、西洋医学では網羅しきれていない複雑化した身体しんたいの不調を訴える方も増えてきています。そんな中、私は、薬剤師とオステオパスの二足のわらじになりますが、自然治癒力を改善する療術で癒すこと、心身ともに健康にすることを、人々へ提供できたらと思います、日々療術を磨くべく学びを続けていきたいと存じます。

卒業は療術師としての新たなスタートです。一人ひとり進む道は違いますが、我々卒業生は、それぞれ学院で学んだ療術を活かし、そして、たくさんのご縁を大切にしていきたい、それぞれの歩幅で一步一步、それぞれの目標に向かい前に進んでいきたいと思えます。

先生方、事務局の皆様を支えていただきながら邁進してまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

そして在校生の皆様、学院での出会い、繋がりを大切にし、心豊かな療術師を目指してください。

最後に東京療術学院のますますのご発展と、ご列席いただきました皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げまして答辞とさせていただきます。

令和六年三月二日

第六十七期卒業生総代